



急性期患者の 目標 PaO₂ に関する Update; Conservative or Liberal?

日時: **2019**年**5**月**30**日|木| **12:00 - 13:00**

会場: **第7会場** (ポートピアホテル南館 B1F エメラルド)

座長

藤野 裕士 先生

大阪大学大学院医学系研究科
生体統御医学講座 麻酔・集中治療医学教室 教授

演者

江木 盛時 先生

神戸大学大学院医学研究科
外科系講座 麻酔科学分野 准教授

共催セミナーは事前予約制です。会員の方は会員HPよりご予約ください。



急性期患者の目標PaO₂に関するUpdate; Conservative or Liberal?

【座長】 **藤野 裕士** 先生
(大阪大学大学院医学系研究科
生体統御医学講座 麻酔・集中治療医学教室 教授)

【演者】 **江木 盛時** 先生
(神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 麻酔科学分野 准教授)

組織や細胞への酸素の供給は、生命維持に極めて重要であり、低酸素血症は臓器障害を惹起し、重篤であれば死に至る。施設や医師によっては、人工呼吸患者のPaO₂を高めに保つことでSafety marginを確保することを考慮しているかもしれない。また、2016年にWHOは、創部感染を減少させるために、術中のF_IO₂を80%とし可能であれば術後2-6時間も継続することを推奨している(Lancet Infect Dis 2016;16: e288-303)。

しかし、高濃度酸素投与は肺障害の惹起(Lorrain Smith効果)や吸収性無気肺と関連する可能性が示唆されている。また、高酸素血症は心拍出量や臓器還流量を低下させ(Circulation. 2015 Jun 16;131(24):2143-50)、活性酸素の産生を促進させることが知られている。

生体では、少なすぎも多すぎも不利益となる“U字現象”が血圧、血糖、脈拍、電解質濃度などさまざまな領域において繰り返し報告されており、PaO₂に関しても同様である可能性がある。近年、ICUにおける人工呼吸中のPaO₂目標値に関する介入試験が複数報告され、近年のメタ解析では高めのPaO₂目標値(liberal)は、低めのPaO₂目標値(conservative)と比較して、病院死亡率、30日死亡率、長期死亡率のいずれも有意に増加させることが報告されている(Lancet 2018; 391: 1693-705)。

我々は、高酸素血症に伴う酸素含有量の増加は臨床的に大きくないことや、その含有量の増加が心拍出量や組織環流量の低下によって相殺される可能性を知っておくなど、酸素が生体に与える生理を理解しながら人工呼吸患者のF_IO₂を設定し、臨床上の目標PaO₂あるいはSpO₂を決める必要があると考える。

本講演では、人工呼吸中の酸素濃度の選択の実情、酸素投与が生体に与える影響および酸素投与プロトコルが患者予後に与える影響を概説し、人工呼吸患者の目標PaO₂を再考するきっかけとしたい。

【 Memo 】